

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201348		
法人名	株式会社 愛誠会		
事業所名	はなまるホーム馬淵	ユニット名	Aユニット
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵4-10-39		
自己評価作成日	平成26年9月28日	評価結果市町村受理日	平成26年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2274201348-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2274201348-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年11月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馬淵の理念である「利用者のあるがままを受け止め、見守りケア」を引き続き業務の中で実践している。企業理念でもある「医療福祉サービスを過不足無く、誠実かつ、高潔に提供する・地域社会、取引先、従業員との間の良好な関係を創る・公正で、透明性の高い健全な経営を行う」を毎朝唱和し、意識を高めている。主治医2名が24時間体制・毎週のように医師2名によるランダムでの個別往診があるため担当医でなくても体調不良・急変時に対応が可能のため職員も安心して利用者へ接する事が出来る。又週1回の訪問看護師による細かな健康管理が出来ており、各利用者様の細かな所までの看護記録が見れるため、より利用者の医療面での職員チェックが出来ていて日々変化する高齢者に早めの対応が出来るようになっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年、企業主体が薬局業でもあることから、特に利用者の健康面には力を注いでいる。提携医2名が24時間体制で待機し、また、定期的に往診してくれているほか、利用者の個別ごとに随時の往診や、毎週訪問看護師による健康チェックなどが行なわれている。薬剤投与でも医師と会社のWチェック体制により安全性を高めている。ホームの経験の長い職員も多く、心の通った言葉使いをモットーとして「利用者のあるがままを受け止め、見守りのケア」を理念として掲げ、日々の介護サービスに取り組んでいる。職員が手作りで調理した食事を、利用者と共に歓談しながらの食事風景や、利用者が積極的にジャガイモの皮むきや後片付けなどをし、利用者との触れ合いが日々繰り返されているアットホームな事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	冒頭でも述べましたが、毎朝の唱和により意識を持っての行動に繋がっている。	企業理念とは別に、ホームを理念として「利用者のあるがままを受け止め、見守りケア」を掲げている。職員の共通認識を図るため毎朝、理念を唱和している。	日々のサービスの提供場面を振り返る中で唱和で終わることなく、理念を実践につなげる具体的な行動の取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慢性的な人員不足・利用者様のレベル低下も見られ、業務優先を考えると難しいものを感じている。現状の中で出来る事を探して行きたい。	散歩や買い物などの際、地域の人達とのつきあいに努めている。また、町内会に加入しており、町内会の役員等が定期的に来訪している。	地域との交流を確かなものとするため、ホームの持っている専門的な介護方法などを地域に発信することを期待したい。まず、回覧板の活用など。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記の理由もあり、現状問題として出来ないと思う。少ない人数の中・レベル低下の中で出来る事を考えて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を実施することにより、包括・民生委員・家族からの意見も聞かれ参考になり、施設では気付く事のない意見も聞かれ参考になる。	2ヶ月に1度の割合で、地域包括支援センター職員や民生委員・家族等の参加により定期的に開催している。双方向的な会議となっており、意見等は事業運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メール・郵便物等のアンケート依頼に対しては返信・報告をしている。	生活保護を受けている利用者もおり、市との関係は深い。また、ホームの実情や介護サービスについて連絡・報告するなどして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は利用者様の状態を考慮しながら出来るだけ解錠し開放的な環境を作るように配慮している。	0宣言を行い、会社の研修などで得た知識を、日々の行動や会議等の中で話し合うことによって、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は勿論のこと、精神的な言葉の暴力も虐待と考え、常日頃から意識を持つように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の介護業務を最優先している為、制度についての勉強会・講習等は手が回らないのが現状。今後、施設内で出来るような取り組みを考えて行く必要性も感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時、家族の意向を最優先しながら円滑に進むようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者からの意見も聞かれているため、施設内ではあるが日々の業務(運営)に生かされていると感じる。意見箱を設置したが意見が聞かれず配置等の見直しが必要。	家族の来訪時や手紙等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。また、出された意見や要望等は運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に機会は設けていないが、職員の自主性を重視しているため意見等上がれば、その都度の対応をしている為問題はないと思う。毎月行われる施設長会議での予算実績比較表を提示しカンファで話し合いの場を設けている。	日常の接触や申し送り・会議等を通じて職員の意見を聞いて運営に反映させている。また、個別面談を行って意見を聞くようにもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る範囲での就業環境は本社に依頼をし、良くなりつつあると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社からの研修を主に、全職員実施し業務に取り組んでいる。行政からの研修をファイルにし、積極的な参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	慢性的な職員減のため、来ていないのが現状。休日を利用しての参加となると個々の予定もあり難しいと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの理念を念頭におきながら、利用者の要望を出来る限り聞きながら良好な関係づくりに努力しているが、全てに満足の得られる結果にはなっていないと感じる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの理念を念頭におきながら、家族の要望を出来る限り聞きながら良好な関係づくりが出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族が必要としているサービス提供を施設内で出来る範囲内で支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場を自分自身の立場に置き換える事により、良い関係が築かれ信頼関係出来つつある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族で出来ない支援をすることを心掛けている。利用者・家族からも信頼関係が築かれている部分もあると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りの要望は取り入れるようにしている。	家族との外食や法事・馴染みの理髪店等、利用者の要望により支援を行っている。また、今までの利用者個々の生活習慣を尊重し、出来る範囲での継続的な交流ができるよう、働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が合い、支え合えるような支援に努めている	個々利用者の生活ペースを重視しながら、無理を強いないように職員も加わり支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があり、必要であれば支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の間でもあるため、ホームで出来る利用者本位の支援を心掛けている。	利用者の変化や動きを捉える気配りが職員に浸透している。設立時から入所している利用者の意向の変化も入所間もない利用者の意向もその時々思いとして受けとめ対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報・家族からの聞き取りをもとにして、なるべく環境を変えないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活ペースを優先しながら主治医・看護師協力のもと連携を密にすると同時に、利用者の日々の様子観察をし「報・連・相」を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務の中で反映される環境作りに取り組めるように努力している。	日々の気づきは記録し、毎月のカンファレンスで個々の現状を確認し検討している。それらを基に協力医の意見、面会や電話で聞き取った家族の要望を踏まえて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の口頭の送りの中でも情報共有し、事務所・職員間の送りノートを設置した中での共有もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	枠に囚われる事無く、柔軟性を持って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用されていないと思われるが、本人の身体状態を考えながら支援できるように努力していると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による毎月ランダムでの個別往診・24H体制・看護師による週1回の健康管理・24H体制での助言が得られるため、適切な医療・看護が受けられている。	本人や家族の希望により、内科に関しては殆どの利用者が協力医の往診を受けている。従来からのかかりつけ医の受診や専門医の受診等、家族と協力して納得のいく医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護日までの利用者様の日々の特変を記録し、訪問看護当日に記録を渡すと同時に状態報告をしてスムーズな看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、こまめな面会・看護師に状態確認をし主治医に報告をしている。病院関係者とは密な連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護師・ご家族との話し合いの場を持つようにしている。終末期に向けての支援・早期の対応をしている。	入所時に事業所として出来ることを説明している。終末期と認められた場合には医師・家族と相談して方向性を決め、情報共有し、協力体制のもと最良の終末を迎えられるよう取り組んでいる。また医師により職員の心のケアも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医が24時間体制でいるため、安心して居る部分もある。今後、看護師を交えての初期対応の勉強会もして行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所・リビング雑庫に緊急時の対応を見られるように設置してある。緊急時の地域との交流に関しては、地域個々のご家族・生活あるため現状難しいものがあると思われる。	法定の災害訓練は消防署の協力の下実施され助言もあり、地域の防災訓練にも参加している。	住宅地に立地しているため、万が一の有事に備えて地域の協力者作りに取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の「コンプライアンス」・自社の「愛誠ケ通信」により、毎月の職員での話し合いの場をもうけ、職員間でもお互いに意識を持ち、行動に現れていると思う。	法人全体での取り組みであり、職員は法人の作成したテキストに対しレポートを提出し、意識向上を図っている。利用者の目線を常に意識することで尊重の気持ちが職員に保たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の場である為、全ての希望・要望は取り入れることは難しいが、他利用者に配慮しながら出来る限り努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の配置状況・利用者の健康状態により沿えない部分もあるが、出来る限り希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合った支援が出来ていると思われ ます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を取り入れての食事メニューを作成・見直しをしながら季節にあった食事の提供をしている。お手伝い出来る利用者は調理補助をお願いしている。	手作りの食事を職員も共にいただく。芋の皮むきや片づけ等利用者は自由に出来ることへ参加している。利用者のリクエストメニューや職員の企画で様々な食事が供され、食はホームの特色でもあることが確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者様の水分チェック表を付ける事を実施し、水分が少ない利用者には嗜好物の水分補給を促している。食事量が少ない利用者には随時、補食での提供も心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の入れ歯洗浄・週1回の口腔ケアコップ・入れ歯ケース洗浄を実施。義歯のない方には口腔清掃用スポンジブラシでの口腔内の清潔保持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら、失敗することなくトイレでの排泄が出来るようにしている。さりげない声掛けによるトイレ誘導を心掛けている。	排せつ自立者へのさりげない支援や全介助の支援を職員が各利用者の様子を観察しながら取り組んでいることが確認できた。ポータブルトイレの使用や夜間の対応等折々に話し合っって適切に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況を確認しながら、訪問看護師の意見も聞きながらの下剤調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた人数配置での業務のため安全第一を最優先とし、出来る限りの支援はしている。	基本的に週2回入浴している。拒否には強要せず時間や職員を変えて楽しんでもらえるよう支援している。利用者にあった入浴介助をそれぞれ職員が工夫し、良かった点を共有して喜んでもらえる入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンを最優先しながら取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報があり、いつでも見れるようにしてある。薬局との連携があるため、その都度の処方内容に関しても連絡・指導があるため安全な服薬が出来ていると思われます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の場である為、思うように実施されていないが、出来る限りの協力体制でいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればそっている。ご家族への依頼は、ご家族の生活があるため、難しいものがある。	日常的には周辺の公園や神社への散歩、また気分転換に買い物に出かけている。家族の協力により食事や宿泊も行われている。四季の行事や遠足で日常と違った外出も楽しめるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等を考慮して基本事務所での保管とし、必要であれば事務所での対応・職員同伴での買い物・外食をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思に沿い、事務所での電話対応・本人持ちの携帯電話での対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内ではないがデッキに小型テントを張り、天気の良い日には、おやつを食べたり・昼食を食べたりと外の空気に触れるようにしている。	居間はカーテン越しの日差しが心地良い。居室部分の廊下は照明で調節している。浴室は車いす対応と一般用があり、利用者の身体状況により選択している。食後の歯磨きには利用者が物入れから自分のセットを取り出して自主的に取り組んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ていると思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている。	居室は利用者と家族が自由に部屋作りが出来るよう促しており、仏壇やテレビ、人形等それぞれに大切な物が配置されている。また入り口引き戸の窓には目隠しをする等要望に応じた工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の配慮となると出来ていない部分もあるが、全体的には安全を配慮しての工夫はされている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201348		
法人名	株式会社 愛誠会		
事業所名	はなまるホーム馬淵	ユニット名	Bユニット
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵4-10-39		
自己評価作成日	平成26年9月28日	評価結果市町村受理日	平成26年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigvosyoCd=2274201348-00&PrefCd=22&VersionCd=](http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2274201348-00&PrefCd=22&VersionCd=)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年11月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馬淵の理念である「利用者のあるがままを受け止め、見守りケア」を引き続き業務の中で実践している。企業理念でもある「医療福祉サービスを過不足無く、誠実かつ、高潔に提供する・地域社会、取引先、従業員との間の良好な関係を創る・公正で、透明性の高い健全な経営を行う」を毎朝唱和し、意識を高めている。主治医2名が24時間体制・毎週のように医師2名によるランダムでの個別往診があるため担当医でなくても体調不良・急変時に対応が可能なため職員も安心して利用者に接する事が出来る。又週1回の訪問看護師による細かな健康管理が出来ており、各利用者様の細かな所までの看護記録が見れるため、より利用者の医療面での職員チェックが出来ていて日々変化する高齢者に早めの対応が出来るようになっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	冒頭でも述べましたが、毎朝の唱和により意識を持っての行動に繋がっている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慢性的な人員不足・利用者様のレベル低下も見られ、業務優先を考えると難しいものを感じている。現状の中で出来る事を探して行きたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記の理由もあり、現状問題として出来ないと思う。少ない人数の中・レベル低下の中で出来る事を考えて行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を実施することにより、包括・民生委員・家族からの意見も聞かれ参考になり、施設では気付く事のない意見も聞かれ参考になる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メール・郵便物等のアンケート依頼に対しては返信・報告をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	Bユニットについては2Fの為、一部利用者を除き窓は安全を考慮し、転落防止のため身体が通らない程度の施錠をしている。1Fとの通路については無施錠である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は勿論のこと、精神的な言葉の暴力も虐待と考え、常日頃から意識を持つように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の介護業務を最優先している為、制度についての勉強会・講習等は手が回らないのが現状。今後、施設内で出来るような取り組みを考えて行く必要性も感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時、家族の意向を最優先しながら円滑に進むようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者からの意見も聞かれているため、施設内ではあるが日々の業務(運営)に生かされていると感じる。意見箱を設置したが意見が聞かれず配置等の見直しが必要。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に機会は設けていないが、職員の自主性を重視しているため意見等上がれば、その都度の対応をしている為問題はないと思う。毎月行われる施設長会議での予算実績比較表を提示しカンファで話し合いの場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る範囲での就業環境は本社に依頼をし、良くなりつつあると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社からの研修を主に、全職員実施し業務に取り組んでいる。行政からの研修をファイルにし、積極的な参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	慢性的な職員減のため、出来ていないのが現状。休日を利用しての参加となると個々の予定もあり難しいと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの理念を念頭におきながら、利用者の要望を出来る限り聞きながら良好な関係づくりに努力しているが、全てに満足の得られる結果にはなっていないと感じる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの理念を念頭におきながら、家族の要望を出来る限り聞きながら良好な関係づくりが出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族が必要としているサービス提供を施設内で出来る範囲内で支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場を自分自身の立場に置き換える事により、良い関係が築かれ信頼関係出来つつある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族で出来ない支援をすることを心掛けている。利用者・家族からも信頼関係が築かれている部分もあると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りの要望は取り入れるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々利用者の生活ペースを重視しながら、無理を強いないように職員も加わり支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があり、必要であれば支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の間でもあるため、ホームで出来る利用者本位の支援を心掛けている。	利用者の変化や動きを捉える気配りが職員に浸透しており、設立時から入所している利用者の意向の変化も入所間もない利用者の意向もその時々思いとして受けとめ対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報・家族からの聞き取りをもとにして、なるべく環境を変えないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活ペースを優先しながら主治医・看護師協力のもと連携を密にすると同時に、利用者の日々の様子観察をし「報・連・相」を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務の中で反映される環境作りに取り組めるように努力している。	日々の気づきは記録し、毎月のカンファレンスで個々の現状を確認し検討している。それらを基に協力医の意見、面会や電話で聞き取った家族の要望を踏まえて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の口頭の送りの中でも情報共有し、事務所・職員間の送りノートを設置した中での共有もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	枠に囚われる事無く、柔軟性を持って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用されていないと思われるが、本人の身体状態を考えながら支援できるように努力していると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による毎月ランダムでの個別往診・24H体制・看護師による週1回の健康管理・24H体制での助言が得られるため、適切な医療・看護が受けられている。	本人家族の希望により内科に関しては殆どの利用者が協力医の往診を受けている。従来からのかかりつけ医の受診や専門医の受診等家族と協力して納得のいく医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護日までの利用者様の日々の特変を記録し、訪問看護当日に記録を渡すと同時に状態報告をしてスムーズな看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、こまめな面会・看護師に状態確認をし主治医に報告をしている。病院関係者とは密な連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護師・ご家族との話し合いの場を持つようにしている。終末期に向けての支援・早期の対応をしている。	入所時に事業所として出来ることを説明している。終末期と認められた場合には医師・家族と相談して方向性を決め情報共有し協力体制のもと最良の終末を迎えられるよう取り組んでいる。また医師により職員の心のケアも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医が24時間体制でいるため、安心して居る部分もある。今後、看護師を交えての初期対応の勉強会もして行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所・リビング雑庫に緊急時の対応を見られるように設置してある。緊急時の地域との交流に関しては、地域個々のご家族・生活あるため現状難しいものがあると思われる。	法定の災害訓練は消防署の協力の下実施され助言をいただいております。地域の防災訓練にも参加している。	住宅地に立地しているため、万が一の有事に備えて地域の協力者作りにも取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の「コンプライアンス」・自社の「愛誠ケ通信」により、毎月の職員での話し合いの場をもうけ、職員間でもお互いに意識を持ち、行動に現れていると思う。	法人全体での取り組みであり、職員は法人の作成したテキストに対しレポートを提出し意識向上を図っている。利用者の目線を常に意識することで尊重の気持ちが職員に保たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の場である為、全ての希望・要望は取り入れることは難しいが、他利用者に配慮しながら出来る限り努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の配置状況・利用者の健康状態により沿えない部分もあるが、出来る限り希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合った支援が出来ていると思われ ます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を取り入れての食事メニューを作成・見直しをしながら季節にあった食事の提供をしている。お手伝い出来る利用者は調理補助をお願いしている。	手作りの食事を職員も共にいただく。芋の皮むきや片づけ等利用者は自由に出来ることへ参加している。利用者のリクエストメニューや職員の企画で様々な食事が供され、食はホームの特色でもあることが確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者様の水分チェック表を付ける事を実施し、水分が少ない利用者には嗜好物の水分補給を促している。食事が少ない利用者には随時、補食での提供も心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の入れ歯洗浄・週1回の口腔ケアコップ・入れ歯ケース洗浄を実施。義歯のない方には口腔清掃用スポンジブラシでの口腔内の清潔保持をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら、失敗することなくトイレでの排泄が出来るようにしている。さりげない声掛けによるトイレ誘導を心掛けている。	排せつ自立者へのさりげない支援や全介助の支援を職員が各利用者の様子を観察しながら取り組んでいることが確認できた。ポータブルトイレの使用や夜間の対応等折々に話し合っって適切に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況を確認しながら、訪問看護師の意見も聞きながらの下剤調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた人数配置での業務のため安全第一を最優先とし、出来る限りの支援はしている。	基本的に週2回入浴している。拒否には強要せず時間や職員を変えて楽しんでもらえるよう支援している。利用者にあった入浴介助をそれぞれ職員が工夫し、良かった点を共有して喜んでもらえる入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンを最優先しながら取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報があり、いつでも見れるようにしてある。薬局との連携があるため、その都度の処方内容に関しても連絡・指導があるため安全な服薬が出来ていると思われます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の場である為、思うように実施されていないが、出来る限りの協力体制でいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればそっている。ご家族への依頼は、ご家族の生活があるため、難しいものがある。	日常的には周辺の公園や神社への散歩、また気分転換に買い物に出かけている。家族の協力により食事や宿泊も行われている。四季の行事や遠足で日常と違った外出も楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等を考慮して基本事務所での保管とし、必要であれば事務所での対応・職員同伴での買い物・外食をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思に沿い、事務所での電話対応・本人持ちの携帯電話での対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内ではないがデッキに小型テントを張り、天気の良い日には、おやつを食べたり・昼食を食べたりと外の空気に触れるようにしている。	居間はカーテン越しの日差しが心地良い。居室部分の廊下は照明で調節している。浴室は車いす対応と一般用があり利用者の身体状況により選択している。食後の歯磨きには利用者が物入れから自分のセットを取り出して自主的に取り組んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ていると思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている。	居室は利用者と家族が自由に部屋作りが出来るよう促しており、仏壇やテレビ、人形等それぞれに大切な物が配置されている。また入り口引き戸の窓には目隠しをする等要望に応じた工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の配慮となると出来ていない部分もあるが、全体的には安全を配慮しての工夫はされている。		